

<b>ナンバリングコード</b> B2THM-caxG-1N-Lg1 <b>授業科目名</b> (時間割コード:000138)  はじめて学ぶDRI イ Introduction to DRI  はじめて学ぶDRI イ Introduction to DRI	<b>科目区分</b> <b>主題科目</b>	<b>時間割</b> 2023年度 1Q火1	<b>対象年次</b> 1～
	<b>水準</b> 学士:基礎科目 <b>分野</b> 主題	<b>提供部局</b> : 大教センター <b>DPコード</b> : cax	<b>対象学生</b> 全学生 <b>特定プログラムとの対応</b> ネクスト・プログラム
	<b>授業形態</b> 講義 グループワーク	<b>単位数</b> 1	
<b>担当教員名</b> 小坂 有資, 西本 佳代	<b>関連授業科目</b> DRIイノベーター養成プログラム対象科目 <b>履修推奨科目</b>		
<b>学習時間</b> 授業90分×7回+授業45分+自学自習(準備学習15時間+事後学習15時間)			
<b>授業の概要</b> 【キーワード】DRI、地域活性化 現代日本社会が抱える課題のひとつとして地域活性化が挙げられます。香川大学では、地域活性化を担う人材を育成するため、DRI教育を推進しています。DRIとは、「デザイン思考(D)」、「リスクマネジメント(R)」、「インフォマティクス(I)」の頭文字です。これらの能力の習得が、地域の課題を解決するための基礎となります。この授業では、地域が抱える課題を確認した後、D・R・Iそれぞれが地域活性化とどのように関わっているのか学びます。そして、DRIを地域活性化にどのようにいかせるか、グループで話し合い、発表します。DRIを地域活性化にどのようにいかせるか考えることによって、現代日本社会が抱える課題に対する探求能力を養います。			
<b>授業の目的</b> DRIについて学びながら、DRIを地域活性化にどのようにいかせるか、考え、説明することができる。			
<b>到達目標</b>			
1. DRI とは何か説明できる。 2. DRI を地域活性化にどのようにいかせるか、自分の言葉で説明できる(共通教育スタンダードの「21世紀社会の諸課題に対する探求能力」に対応)。 3. 自分の主張をわかりやすく表現することができる(共通教育スタンダードの「課題解決のための汎用的スキル」に対応)。			
<b>成績評価の方法と基準</b> レポート60%(到達目標1、2、3に対応)、予習シート15%(特に到達目標1、3に対応)、グループ発表25%(到達目標2、3に対応)			
<b>成績評価の基準</b> 成績の評価は、100点をもって満点とし、秀、優、良及び可を合格とする。各評価基準は次のとおりとする。 秀(90点以上100点まで) 到達目標を極めて高い水準で達成している。 優(80点以上90点未満) 到達目標を高い水準で達成している。 良(70点以上80点未満) 到達目標を標準的な水準で達成している。 可(60点以上70点未満) 到達目標を最低限の水準で達成している。 不可(60点未満) 到達目標を達成していない。 ただし、必要と認める場合は、合格、了及び不合格の評語を用いることができる。その場合の評価基準は次のとおりとする。 合格又は了 到達目標を達成している。 不合格 到達目標を達成していない。			
<b>授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス</b>			
<b>【授業計画】</b> 第1回 オリエンテーション (小坂有資・西本佳代) 第2回 地域の課題を考える (小坂有資・西本佳代) 第3回 デザイン思考を活用した地域活性化 (石塚昭彦・小坂有資・西本佳代) 第4回 リスクマネジメントを活用した地域活性化 (井面仁志・小坂有資・西本佳代) 第5回 インフォマティクスを活用した地域活性化 (林敏浩・小坂有資・西本佳代) 第6回 DRIを地域活性化にどのようにいかせるか?グループ発表準備 (小坂有資・西本佳代) 第7回 DRIを地域活性化にどのようにいかせるか?グループ発表 (小坂有資・西本佳代) 第8回 まとめ (小坂有資・西本佳代)			
<b>【授業方法】</b> 第1回と第2回は、講義とグループワークを行います。 第3～5回は、映像資料等を用いた反転授業を行います。事前学習として、(1)D・R・Iに関する映像資料等を視聴し、(2)(1)で得た知識を活用してグループで扱う地域課題を考察する予習シートを提出してもらいます。授業内では、予習シートをもとに、グループで議論をし、発表してもらいます。 これらの授業で得た知識等をもとにして、第6回のグループワークと第7回の発表を行います。 この科目は全回対面授業を行います。なお、状況によっては全て又は一部の回の授業形態を遠隔に変更する			

可能性があります。

**【自学自習のためのアドバイス】**

第1回 グループで取り組む地域課題で、(1)自分自身と関連のある具体的な地域課題の現状を調べて、(2)その地域課題の解決策に関するレポートを作成する。(3時間)

第2回 グループワークで作成した地域課題の解決策を、自分の言葉でまとめるレポートを作成する。(2時間)

第3～5回 (1)D・R・Iに関する映像資料等を視聴し、(2)(1)で得た知識を活用してグループの地域課題を考察する予習シートを提出する。(各回4時間)

第6回 第7回の発表のための準備をする。(5時間)

第7～8回 (1)DRIを学んだ前後で地域課題の解決策がどのように変わったか、(2)本授業でどのような学びがあったかをレポートにまとめる。(各回4時間)

**教科書・参考書等**

教科書・参考書等は授業中に適宜紹介します。

**オフィスアワー** まずは、コーディネーターの小坂にご連絡をください。小坂が、他の先生方にお伝えします。

ちなみに小坂のオフィスアワーは、水曜日12～14時で、場所は幸町北5号館5階です。

**履修上の注意・担当教員からのメッセージ**

・本授業は、DRIイノベーター養成プログラムの必修科目です。そのため、DRIイノベーター養成プログラムに参加する人は必ず履修してください。

・本授業を履修した学生は、DRIイノベーター養成プログラムに参加登録をしてください。

・15分以上の遅刻は欠席として扱います。

<b>ナンバリングコード</b> B2THM-caxG-1N-Le1 <b>授業科目名</b> (時間割コード:000139)  はじめて学ぶDRI ロ Introduction to DRI  はじめて学ぶDRI ロ Introduction to DRI	<b>科目区分</b> 主題科目	<b>時間割</b> 2023年度 3Q集中	<b>対象年次</b> 1～
	<b>水準</b> 学士:基礎科目 <b>分野</b> 主題	<b>提供部局</b> : 大教センター <b>DPコード</b> : cax	<b>対象学生</b> 全学生 特定プログラムとの対応 ネクスト・プログラム
	<b>授業形態</b> 講義 e ラ ーニング	<b>単位数</b> 1	
<b>担当教員名</b> 小坂 有資, 西本 佳代	<b>関連授業科目</b> DRIイノベーター養成プログラム対象科目 <b>履修推奨科目</b>		
<b>学習時間</b> 授業90分×7回+授業45分×1回+自学自習(準備学習15時間+事後学習15時間)			
<b>授業の概要</b> 【キーワード】DRI、地域活性化 現代日本社会が抱える課題のひとつとして地域活性化が挙げられます。香川大学では、地域活性化を担う人材を育成するため、DRI教育を推進しています。DRIとは、「デザイン思考(D)」、「リスクマネジメント(R)」、「インフォマティクス(I)」の頭文字です。これらの能力の習得が、地域の課題を解決するための基礎となります。この授業では、地域が抱える課題を確認した後、D・R・Iそれぞれが地域活性化とどのように関わっているのか学びます。そして、DRIを地域活性化にどのようにいかせるか考えることによって、現代日本社会が抱える課題に対する探求能力を養います。			
<b>授業の目的</b> DRIについて学びながら、DRIを地域活性化にどのようにいかせるか、考え、説明することができる。			
<b>到達目標</b>			
1. DRI とは何か説明できる。 2. DRI を地域活性化にどのようにいかせるか、自分の言葉で説明できる(共通教育スタンダードの「21世紀社会の諸課題に対する探求能力」に対応)。 3. 自分の主張をわかりやすく表現することができる(共通教育スタンダードの「課題解決のための汎用的スキル」に対応)。			
<b>成績評価の方法と基準</b> レポート100%。内訳は、第1回～第6回、第8回、最終のレポートの各10%、第7回のレポートは20%である。第1回～第3回のレポートは到達目標3に対応し、第4回～第8回と最終レポートは到達目標1、2、3に対応している。			
<b>成績評価の基準</b> 成績の評価は、100点をもって満点とし、秀、優、良及び可を合格とする。各評価基準は次のとおりとする。 秀(90点以上100点まで) 到達目標を極めて高い水準で達成している。 優(80点以上90点未満) 到達目標を高い水準で達成している。 良(70点以上80点未満) 到達目標を標準的な水準で達成している。 可(60点以上70点未満) 到達目標を最低限の水準で達成している。 不可(60点未満) 到達目標を達成していない。 ただし、必要と認める場合は、合格、了及び不合格の評語を用いることができる。その場合の評価基準は次のとおりとする。 合格又は了 到達目標を達成している。 不合格 到達目標を達成していない。			
<b>授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス</b>			
<b>【授業計画】</b> 第1回 オリエンテーション (小坂有資・西本佳代) (遠隔・オンデマンド) 第2回 地方創生とは何か (小坂有資・西本佳代) (遠隔・オンデマンド) 第3回 地域社会とは何か (小坂有資・西本佳代) (遠隔・オンデマンド) 第4回 デザイン思考を活用した地域活性化 (石塚昭彦) (遠隔・オンデマンド) 第5回 リスクマネジメントを活用した地域活性化 (井面仁志) (遠隔・オンデマンド) 第6回 インフォマティクスを活用した地域活性化 (林敏浩) (遠隔・オンデマンド) 第7回 DRIを活用した地域活性化 (小坂有資・西本佳代) (遠隔・オンデマンド) 第8回 まとめ (小坂有資・西本佳代) (遠隔・オンデマンド)			
<b>【授業及び学習の方法】</b> 授業は、すべてオンデマンド型授業です。授業のコンテンツは、Moodleの「はじめて学ぶDRI ロ」のコースに掲載されます。1週間につき授業1回というペースで進めていき、毎週火曜日に新たな授業のコンテンツが視聴可能になります。 この科目は全回遠隔授業を行います。			
<b>【自学自習のためのアドバイス】</b> 第1回 授業に関わるアンケートに回答する。教科書の序章を要約し(200字程度)、第1章～第4章を各章ご			

とに要約する（各章400字程度で計1600字程度）。（5時間）

第2回 各自で取り組む「地域社会の課題」を決定し、その背景を調べてレポートにまとめる（2400字程度）。（3時間）

第3回 教科書の第5章と第6章で取り上げられている事例や対話篇1～3も参考にしながら、各自で取り組んでいる「地域社会の課題解決策1」を考え、レポートにまとめる（2400字程度）。（4時間）

第4回 (1) デザイン思考のポイントをまとめ（400字程度）、(2) 各自で取り組んでいる「地域社会の課題」に対して、デザイン思考をどのように活用することができるかをレポートにまとめる（1200字程度）。（4時間）

第5回 (1) リスクマネジメントのポイントをまとめ（400字程度）、(2) 各自で取り組んでいる「地域社会の課題」に対して、リスクマネジメントをどのように活用することができるかをレポートにまとめる（1200字程度）。（4時間）

第6回 (1) リスクマネジメントのポイントをまとめ（400字程度）、(2) 各自で取り組んでいる「地域社会の課題」に対して、リスクマネジメントをどのように活用することができるかをレポートにまとめる（1200字程度）。（4時間）

第7回 DRIを活用し、「地域社会の課題解決策2」を考えレポートにまとめる（2400字程度）。（4時間）

第8回 (1) 「地域社会の課題解決策1」と「地域社会の課題解決策2」を比較して変更した部分と変更しなかった部分を示しその理由を論述し、レポートにまとめる（1200字程度）。（3時間）

最終レポート DRIを地域活性化に活用するメリットについてレポートにまとめる（2400字程度）。（3時間）

#### 教科書・参考書等

教科書・参考書等

教科書：増田寛也（2014）『地方消滅：東京一極集中が招く人口急減』中公新書．902円（税込み）．

参考書等：授業中に適宜紹介します。

オフィスアワー まずは、コーディネーターの小坂にご連絡ください。小坂が、他の先生方にお伝えします。

ちなみに小坂のオフィスアワーは、水曜日12～14時で、場所は幸町北5号館5階です。

#### 履修上の注意・担当教員からのメッセージ

- ・本授業は、DRIイノベーター養成プログラムの必修科目です。そのため、DRIイノベーター養成プログラムに参加する人は必ず履修してください。
- ・本授業を履修した学生は、DRIイノベーター養成プログラムに参加登録をしてください。
- ・教科書の購入は必須です。
- ・やむを得ない場合を除いて、レポート等の課題の締切後の提出は認めません。